

高志

同窓会報 2010

- 平成22年10月25日発行
岩手県立盛岡第四高等学校同窓会事務局
〒020-0835 岩手県盛岡市津志田26-17-1
TEL 019-636-0742 FAX 019-636-0797
- 同窓生数（平成22年3月1日現在）
◎全同窓生数 14,010名（男8,506名、女5,504名）
◎平成21年度卒 314名（男165、女149）（44回生）
- もくじ
P.2 同窓会長「ご挨拶」
校長「忘るまじ9.18」
P.3 特集 書道部
P.4 部活動報告
P.6 同窓会報告・近況報告
P.7 対談
P.8 平成21年度進路状況・事務局名簿
人事異動・お知らせ





同窓会長
中野崎 邦宏

ご挨拶

記録的猛暑の夏と厳しい残暑も終わり、いきなり秋の深まりを感じさせる今日この頃ですが、同窓生の皆様方には元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

今年の夏は本当に熱かったです、気温のことだけでなく、野球でも十六年ぶり(?)の甲子園出場かと熱く燃えた夏でした。秋季の県大会も準々決勝まで進み東北大会出場まであと一歩でしたが今後の活躍が楽しみです。さらに今年は音楽部が定期演奏会を初めて開きましたが、素晴らしい演奏会でした。

さて、志高もあと四年で創立五十周年を迎えます。同窓生も一万五人になります。五十周年にはひとりでも多くの同窓生に参加して祝って戴きたいと思っております。ご協力をお願いします。

今後とも、母校発展のため、学校・PTA・教育後援会との連携を深め、志高らしい自由で伸びやかでユニークな同窓会活動を行って参りたいと存じますので、会員皆様方のご理解と積極的な協力とご支援をお願い申し上げます。

一 はじめに

中野崎邦宏同窓会長さんはじめ会員の皆様には日頃、本校の教育振興に多大な御理解と御支援を賜り誠にありがとうございます。心から御礼申し上げます。

二 高校生国際文化交流

この原稿を九月十八日に中国・広州市第四中学校で書いています。なぜ中国に来ているかについて説明します。「平成二十二年度高校生国際文化交流事業」(文化庁・全国高文連主催)として日本音楽部門から、学校法人創備学園創備高等学校箏笛部の生徒二十名

と引率者とともに全国高等学校文化連盟会長の立場で派遣されたことによるものです。

三 鳴り響くサイレン

前日に中国入りし、今日九月十八日を受け入れ先の第四中学校との交流の初日である。日本と中国の両校による生徒の自己紹介後のWS(ワークショップ)・最中の十時三十分突然、サイレンがけたたましく鳴り始めた。中国の生徒は平然としているが、日本の生徒と引率者は驚きの表情を隠せないでいる。それを感じ取った通訳の方が「今日は日本と中国の不幸な出来事の始まりで、日本が中国に侵略した日(満州事変の始まり)です。中国人はこの歴史的な日を決して忘れてはならない」と誓いをサイレンに託してののです」と私たちに説明してくれた。誓いのサイレンは延々二十分も鳴り続けた。

四 障害を乗り越えて

交流会の開講式でも中学校の校長が今日の歴史的な意味についても述べられた。「これまで、両国には様々な障害があった。それを乗り越えて今日九月十八日の交流にこぎ着けたことに意義がある」と。私もこれに返答する形で、「ここに集う若人がこの機会を契機に両校及び両国が仲良くなり両国のみならず世界平和に貢献できる有為な人材になることを期待します」とあい

さつした。

私たちにあって、九月十一日(アメリカ同時多発テロ事件)は何の日かすぐに理解できるが、九月十八日は忘れていたというよりも知らなかったという人が多いのではないだろうか。

中国の漁船衝突事故問題に加え、満州事変勃発記念にあたる九月十八日といった日中両国にとって世情が敏感な折に、無事に交流を終えることができ安堵しているのが偽らざる気持ちである。

五 交流を終えて

私たちは八月六日の広島原爆記念日、八月九日の長崎原爆記念日、八月十五日の終戦記念日くらいは覚えている(と言いたい)、世論調査によると知らない若年層が年々増えつつあるという)が、私も九月十八日の意味を知らない一人であった。

この日を被害国の中国にとっては忘れることができない、忘れてはならない日として受け止めている。中学校で聞いた二十分にも及ぶサイレンの響きは中国人の「忘れまじ」の強いメッセージを私たちに強く訴えかけているように感じられてならない。

一連の問題が早期に解決し、再び日中の友好が長く続くことを願いながら……。

忘るまじ 9.18



校長
藤原 正義

特集

書道部



本校書道部は、本校創立当初より発足、現在に至ります。

発足当初は書道室はなく、教材室という狭いスペースで活動をしていました。徐々に部員と活動実績を伸ばし、ここ数年間は、県内展では岩手県高等学校総合文化祭書道部門や岩手県書写書道作品コンクール、全国展では全国高等学校総合文化祭、全日本高校・大学生書道展、高校生国際美術展（書道部門）で輝かしい入選・入賞歴を残しています。

それを支えた、あるいはそうした輝かしい結果を裏付けるものが、豊富な練習量です。ひたすらに書く。それが、ただ事務的に書き重ねていくという作業としての練習ではなく、高度な筆使いの習得と、字形・文字群の構成美や全体としてのバランスの追究を、主体的に行っているところに凄さがあります。その姿勢こそ、本校書道部の特筆すべき点でしょう。

高校生の書道の学び方としては、臨書（古人の優れた筆跡を真似して書くこと）が不可欠で、それを通して、技術を高め、文字や作品の気品や風格を学びます。その際、参考となるのが作例（『手本』）です。生徒たちは、作例を見ながら練習を重ねます。例えば、全紙（約136cm×約68cmの大きさの紙のこと）を縦に使用して5行に書く場合、まず全紙に5行の折り目をつけ（さらに各行の中心に折り目をつけることもある）、すく横に作例を置いて、真似をしながら書いて練習します。線のタッチ、筆勢、遅速緩急、字形、文字の並び、文字群の繋がり、

行の流れ、全体感に留意します。それを100枚あるいは200枚と机上で書くので、作例もその度に上下することになり、いつしか作例はすり切れて紙が薄く弱くなり、所々破れてしまします。それをセロテープで補強しながら更に書き込みます。

この地道な繰り返しで技術が高まるのですが、ここで大切なことは、鑑賞眼（判断力）も共に高まっているということです。正確には、鑑賞眼の高まりが無ければ技術の高まりも無く、見える程度にしか書けない」とも言われます。書くことで鑑賞眼（判断力）が高まり、見える（わかる）ようになるから、更に書けるようになる。

このように、鑑賞眼（判断力）の高まりと技術の向上という相互作用により少しずつ作品が高度になるといえることがわかると、わずかな違いを自覚でき、一枚一枚の書き込みが作業だけではなく、質的向上につながります。

これは人間が成長するのと同じです。古くから「書は人なり」と言われるのはその所以です。作品制作を通じて鑑賞眼（判断力）と技術を高め、書を通じて人格を磨き、そんな遠大な目標に、一歩でも近づけるよう、書の魅力・本質をこれからも探り続けたいと思います。どうぞ今後ともご指導ご支援を宜しくお願いいたします。

今年度8月までの取り組みの代表として、高橋奈々さんと熊谷陽菜子さんの作品と本人苦労談を掲載いたします。

高橋奈々さんの作品は、清代の書家傅山（フザン）の作品の臨書です。縦228cm×横53cmの紙にダイナミックな運筆により流麗にまとめた秀作です。第15回全日本高校・大学生書道展で栄える第一席の大賞に輝きました。

龍井芒同得鶴筆龍筆和細石人同崇何竟牙
 臨之親余混流傳父唯名傳幸年亦慶東在矣非李
 翁時後難雁燈清早龍如茂唐必在宮蘇并李時

熊谷陽菜子さんの作品は、宋代の書家米芾（ベイフツ）の作品の臨書です。縦170cm×横68cmの紙に単体で小気味よく文字を並べ、清冽にまとめた秀作です。第34回全日本高等学校総合文化祭（宮崎大会）書道部門に岩手県代表として出品された作品です。

未若一能得秋跡名枯道知既青柳多游張是時
 和夫也秋美背冷照晴賦淡山ア斜噴散位落餘共
 所早綠賦君書碧江浪重九會那標山清兼更五秋
 美黃菊私某滿証那千里結官穿有後群背草分
 根居荷社半同密余鳥是謝守風流古何傳獨把秋
 英傷成事老來情味而請歸和松林公峴 米芾書

三年 高橋 奈々

高校・大学書道展への取り組みは、去年の十一月から始まりました。私達三年生にとっては残り少ない展覧会の一つ。良い賞をもらうため、皆一生懸命でした。顧問の先生にご指導をいただいたり、生徒同士で話し合ったり作品を見合ったりしました。

目標としていた先輩方が卒業し、顧問が代わり、一年生が入学して書道部内の雰囲気、環境が変わりました。戸惑いを感じながらも活動をし、高校・大学書道展以外のコンクールにも取り組むなど、忙しい日々でした。二年生の姿勢も変わり、一層部活動への意欲が感じられました。

様々な状況の中、私はひたすら書き続けました。同じ古典を書いていた先輩の作品を見て学び、この古典の特徴はなにか、どのように書けば良いのか考えました。思ったように書くことが出来ず、投げだしたい気持ち



ちになったこともありましたが、それでも共に頑張っている部員の姿を見て気持ちを切り替え、6切りの六月まで書き、戴いた結果は大賞。驚きこのことを一緒に喜んでくれた家族や友達、指導をして下さった先生への感謝の気持ちでいっぱいです。四高書道部で学んだものを心の糧として、これからも書道を通じていきたいと思っています。

三年 熊谷陽菜子

この高文祭の作品は、去年の七月から約三ヶ月と、全国大会出品が決まっていたから作品の書き直しの期間を合わせて、半年近く書き込み、仕上げました。それゆえにこの作品に対しては、今まで書いてきた他の作品よりもより強い思いがあります。

書き始めた時は手本がなく、ひたすら原本を見て書き込みました。その中で、原本の特徴をとらえ、作者が込めた想いを考え

ながらどうやって自分のものにしていくかということが一番難しく、大変でした。県代表がかかった展覧会ということで、最初は正直、皆が書いている姿を見て自分も頑張ろうという気持ちよりも、あせりや不安の方が大きく思い悩むこともたくさんありました。しかしそれでも最後に自分の力になったのはやはり、一生懸命書いている部員の姿、指導していただいた先生の言葉、支えてくれた家族の存在でした。

全国大会が行われた宮崎県では、全国の高校生のハイレベルな作品を生で見てくることができ、表現の仕方など多くのことを学んでくれることができました。このような機会を与えてくれた多くの方々へ感謝しています。これからも書道を通じ、自身の技術向上を目指して頑張ります。

久慈 佳博・佐々木忠浩 ベスト16
18歳以下男子ダブルス
菊地 航平・成田 宏規組 ベスト8
久慈 佳博・吉田 和馬組、
後藤 建・佐々木忠浩組 ベスト16

●平成22年度岩手県高校テニスフェスティバル 盛岡四
高A 3位
●第62回高総体県大会
男子団体 3位
男子個人
シングルス
菊地 航平・久慈 佳博 ベスト16
ダブルス
久慈 佳博・吉田 和馬組 ベスト8
菊地 航平・成田 宏規組、
後藤 建・佐々木忠浩組 ベスト16

女子
●第31回岩手県ジュニアテニス選手権
(兼第32回東北ジュニアテニス選手権大会岩手県予選会)
18歳以下女子シングルス 田村 聖梨 10位
18歳以下女子ダブルス
佐々木優衣・桑原 優組、
田村 聖梨・村松 佳乃組 ベスト8
●第62回高総体県大会
女子団体 1回戦 盛四 3-0 不來方
準々決勝 盛四 0-3 盛岡南
女子個人
シングルス
田村 聖梨、桑原 優、村松 佳乃 1回戦敗退

ダブルス
青木・大澤組、田村・桑原組、
佐々木・村松組 2回戦敗退
●第27回県1年生テニス選手権大会
女子団体 第2位
2回戦 盛四 2-1 盛三
準決勝 盛四 2-1 盛二
決勝 盛四 0-2 盛一
女子シングルス 佐々木春花 ベスト16
●第42回県高校新人テニス大会
女子団体 1回戦 盛四 5-0 不來方
準々決勝 盛四 0-5 盛一
敗者復活戦 盛四 0-3 花北

登山部

男子
●平成22年度高総体登山競技
第4位(90.4点、15チーム中)

バレーボール部

男子
●高総体 (ベスト16)
3回戦 盛岡四 0(16-25 18-25) 2 盛岡南

女子
●高総体 (ベスト32)
2回戦 盛岡四 1(25-19 25-27 20-25) 2 宮古水産

剣道部

男子
●盛岡市民体育大会
団体戦A 3回戦 対盛岡一A 2-2(本数負け) BEST 8
団体戦B 1回戦 対盛岡南 2-3
個人戦 川崎 純 2回戦敗退
工藤 久和 優勝

●北陽旗争奪剣道大会
団体戦A 3回戦 対花巻北B 2-3
団体戦B 1回戦 対山田 2-3
C 1回戦 対盛岡北B 2-3
D 1回戦 対黒沢尻北B 2-2(本数勝ち)
2回戦 対宮古 0-5
個人戦 川崎 純: 2位
高階 峻: 3位
県高総体 団体戦予選リーグ2勝 [対金ヶ崎、花巻東]
決勝トーナメント 1回戦 対福岡 2-2【本数負け】 Best16
個人戦 川崎 純 (3年) Best16
工藤 久和 (3年) 3回戦敗退

女子

●県高校選抜
1回戦 対百合 相手4人残して敗退
●北陽旗争奪剣道大会
団体戦
A 1回戦 対水沢 1-2
B 1回戦 対宮古南 2-2(本数負け)
個人戦
関しおり Best16
谷藤 麻衣 1回戦敗退

●県高総体
団体戦予選リーグ敗退 対専修大学北上高校
個人戦 関しおり (3年) 2回戦敗退
谷藤 麻衣 (2年) 3回戦敗退

柔道部

男子
●第62回岩手県高等学校総合体育大会柔道競技盛岡地区予選会
個人戦
66キログラム 工藤 優平 (2年) 3回戦敗退
73キログラム 坂下 翔也 (2年) 3回戦敗退
●第42回岩手県高等学校1・2年体重別柔道選手権大会
男子個人戦 2年の部
①60kg級 坂下 翔也 1回戦敗退
②66kg級 工藤 優平 1回戦敗退
男子個人戦 1年の部
①81kg級 福田 郁 1回戦敗退

ハンドボール部

男子
●第62回岩手県高等学校総合体育大会
準々決勝 盛岡四 29-30 盛岡中央 ベスト8

女子

●第62回岩手県高等学校総合体育大会
2回戦 盛岡四 11-15 花巻北

野球部

●高等学校野球選手権岩手大会
2回戦 盛四 11-3 福岡工
3回戦 盛四 7-4 大船渡東
4回戦 盛四 7-6 一期一 延長15回サヨナラ
5回戦 盛四 4-3 盛岡中央 9回サヨナラ
6回戦 盛四 0-7 盛岡大附 8回コールド (ベスト4)
●第63回秋季東北地区高等学校野球岩手県大会
1回戦 盛四 3-2 山田
2回戦 盛四 4-0 水沢
3回戦 盛四 3-6 一関学院 (ベスト8)

囲碁・将棋部

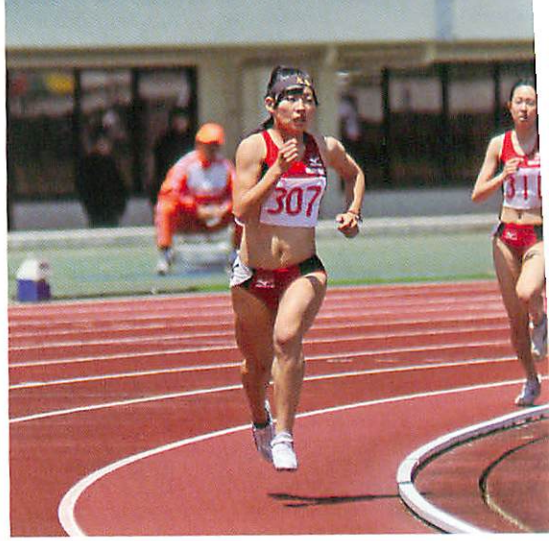
●高校将棋大会
個人戦 B級 千葉 倫太 ベスト8
高館 秀喜 ベスト16
C級 松本 直也 ベスト16
団体戦 B級 第4位
●冠王戦(個人戦のみ)
個人戦 A級 谷藤 稜真 ベスト16
B級 大平 冬也 ベスト16

バントワリング部

●第7回バントワリング岩手県大会
全国共通規定演技ソトワール
<入門> 金賞 高橋明日美 (1-1)
昆 真理奈 (1-7)
七木田奈央 (1-4)
<初級> 金賞 小川 夏季 (2-7)
高橋美都子 (2-7)
畑本 理奈 (2-7)
廣田 沙樹 (2-1)
深野 友紀 (2-3)
米島々々実 (2-6)
長山まなみ (1-7)
<上級> 金賞 昆 茶天 (1-7)
●第34回岩手県マーチングフェスティバル 優秀賞

書道部

●第8回岩手県高等学校書道作品コンクール (6/16日~20日岩手県民会館展示室)
岩手書道協会会長賞 熊谷陽菜子 (3年)
奨励賞 池田 佳代・浅沼 亜紀 (3年)
武藤 涼子 (2年)
●第11回高校生国際美術展 (7/29日~8/2日上野の森美術館)



奨励賞 熊谷陽菜子・高橋 美波 (3年)
武藤 涼子 (2年)
佳作 浅沼 亜紀・池田 佳代 (3年)
●第34回全同高等学校総合文化祭宮崎大会
書道部門出品 熊谷陽菜子 (3年)
●第15回全日本高校・大学生書道展 (8/24日~29日)
書道展大賞 (第1席) 3年 高橋 奈々: 漢字
書道展賞 (第2席) 3年 熊谷陽菜子: 調和体
3年 吉田 香苗: 漢字
優秀賞 (第3席) 3年 浅沼 亜紀: 漢字
池田 佳代: 漢字
3年 熊谷陽菜子: 漢字
2年 高平 葵: 漢字
2年 武藤 涼子: 調和体

吹奏楽部

●全日本吹奏楽コンクール盛岡地区大会銀賞
●全日本吹奏楽コンクール岩手県大会 銀賞
●全日本マーチングコンテスト岩手県大会 金賞
●マーチングフェスティバル岩手県大会 優秀賞

美術部

●第11回高校生国際美術展 美術の部
奨励賞 八重樫佳奈 (3年)
★第33回岩手県高等学校総合文化祭ホスター公募
最優秀賞 八重樫佳奈 (3年)
優良賞 成瀬 真実 (2年) 須藤 優 (1年)
★平成22年度岩手県高等学校文化連盟賞
八重樫佳奈 (3年) 成瀬 真実 (2年)

文芸部

●第9回全国「高校文芸(及び文芸創作)コンクール」
(主催・梅光学園)
高校文芸誌部門 佳作 『志高文芸43号』
●平成22年度岩手県高校生文芸コンクール
・小説部門
優秀賞 「妄想キャンディ」 佐々木晴菜(2-5)
優良賞 「銀杏の万年筆」 大湊 英恵(1-5)
「手紙」 泉山 若菜(2-5)
「よい旅を」 都築あさき(3-2)
「私の幸せ」 軍司 琴乃(3-2)
「青柿の思い出」 佐々木ななみ(1-1)
・詩部門
優秀賞 「海」 伊藤 大樹(1-7)
優良賞 「日本男児」 桂 大喜(3-3)
人選 「カーテンの向こう」 大湊 英恵(1-5)
「野の」 佐々木ななみ(1-1)
「血潮」 都築あさき(3-2)
・短歌部門
人選 業坂が、雷上がり、黒りつる。 大湊 英恵(1-5)
水菓子、夕立ちに、移さぬ。 藤田 真緒(2-4)
「星宮は、君も鬼、バラバラと」 都築あさき(3-2)
・俳句部門
優良賞 「風鈴を、文の日は、月の日は」 佐々木晴菜(2-5)
人選 「しぼれるな、短いはひ、水鏡の」 泉山 若菜(2-5)
「電燈は、月の日は、降りしきる」 都築あさき(3-2)
・児童文学
人選 「本漏れ日の中で」 郡司 琴乃(3-2)
・文芸部誌部門
優秀賞 『志高文芸 44号』



ポスター最優秀賞 八重樫佳奈 (3年)





ソフトボール部

- 高総体 (ベスト16)
- 3回戦 盛岡四 0-7 大東
- 平成22年岩手県高等学校新人ソフトボール大会
- 1回戦 盛岡四 3-5 盛岡農業

水泳部

- 岩手県選手権水泳競技大会
- 男子400Mリレー 第3位
- 第62回岩手県高等学校総合体育大会
- 男子フリーリレー 決勝進出
- 女子フリーリレー 決勝第6位 東北大会進出
- 女子メドレーリレー 決勝第5位 東北大会進出
- 個人女子
- 砂子田みゆき (3年)
- 50M自由形 5位 100M自由形 6位
- 佐野 佳美 (3年)
- 100M平泳ぎ 5位 200M平泳ぎ 6位
- 村上 暉 (3年)
- 200M自由形 7位
- 以上3名 東北大会進出
- 第65回東北水泳大会
- 女子フリーリレー・メドレーリレー 個人
- 3年 砂子田みゆき、佐野佳美、村上暉 出場
- いずれも決勝進出なし

**運動部・文化部・同好会
所属部員一覧**

運動部	人数	文化部	人数
硬式野球	68	文芸	15
柔道 (男子)	3	写真	5
ハンドボール (男子)	35	美術	12
ハンドボール (女子)	21	英語	26
剣道 (男子)	22	演劇	16
剣道 (女子)	9	吹奏楽	65
バレーボール (男子)	18	茶道	25
バレーボール (女子)	22	華道	11
登山 (男子)	8	書道	22
テニス (男子)	23	音楽	27
テニス (女子)	19	音楽	52
バドミントン (男子)	22	バトントワリング	18
バドミントン (女子)	23	囲碁・将棋	11
卓球 (男子)	26	自然科学	8
卓球 (女子)	4	小計	313
陸上競技 (男子)	32	同好会	人数
陸上競技 (女子)	20	体操	2
バスケットボール (男子)	28	小計	2
バスケットボール (女子)	26	総合計	837
サッカー	49		
水泳 (男子)	10		
水泳 (女子)	7		
ソフトボール	27		
小計	522		



- 第48回岩手県高等学校水泳競技新人大会
- 男子5名 女子1名 参加 いずれも決勝進出なし

サッカー部

- 第62回 岩手県高等学校総合体育大会
- 2回戦 盛岡四高 0対1 専大北上
- 2010 iLEAGUE U-18 (2部)
- 第7節 盛岡四高 1対2 花巻北高
- 第8節 盛岡四高 1対2 大船渡高
- 第9節 盛岡四高 1対2 不束方2
- 第10節 盛岡四高 1対2 大槌高校
- 第11節 盛岡四高 1対1 盛岡北高
- 第12節 盛岡四高 2対1 葛巻高校
- 第13節 盛岡四高 1対3 花巻東2
- 第14節 盛岡四高 2対2 黒沢尻北

バスケットボール部

- 男子
- 第62回岩手県高等学校総合体育大会
- 3回戦 盛岡四 64-71 高田
- 岩手県高等学校選抜大会盛岡地区予選
- 盛岡四高 63-79 盛岡中央
- 女子
- 平成22年度高校総体
- 3回戦 盛岡四 46-91 黒沢尻北

陸上競技部

- 男子
- 高総体
- 男子総合の部 8位
- 800m 6位 藤川 進
- 1500m 1位 大谷 宗平
- 5000m 6位 大谷 宗平
- 走高跳 1位 阿部 倫
- 走高跳 2位 中山 健
- ※以上東北大会出場
- ★東北高校選手権
- 走高跳 7位 中山 健
- 岩手県選手権 (一般と同じカテゴリ)
- 1500m 3位 大谷 宗平 (4'01"69)
- 走高跳 2位 阿部 倫 (1m95)
- 走高跳 6位 中山 健 (1m85)
- 県民体 (国体選手選考会)
- 少年B
- 3000m 6位 新保 太智 (9'07"02)
- 走幅跳 6位 安孫子敏也 (5m89)
- 少年共通
- 走高跳 1位 阿部 倫 (2m01) ※国体代表
- 走高跳 3位 中山 健 (1m94)
- ★東北総合体育大会 (一般と同じカテゴリ)
- 走高跳 4位 阿部 倫 (1m95)
- 新人大大会
- 1500m 5位 新保 太智 (4'10"41)
- 走高跳 1位 中山 健 (1m95)
- 砲丸投 6位 高橋健太郎 (10m43)
- ★東北新人大大会
- 走高跳 3位 中山 健 (1m90)
- ★国民体育大会 (千葉国体)
- 少年共通
- 走高跳 13位 阿部 倫 (1m97)
- 女子
- 高総体
- 女子総合の部 3位
- 女子トラックの部 2位
- 400m 1位 細田友里絵
- 800m 1位 細田友里絵 ※大会新
- 800m 2位 星合 萌絵
- 1500m 1位 星合 萌絵
- 1500m 2位 三浦 紗知
- 100mH 1位 高橋さとみ
- 七種競技 3位 菅原詩央里
- 4×100m 5位 阿部かおり-菅原詩央里-高橋さとみ-細田友里絵
- 4×400m 6位 細田友里絵-星合萌絵-三浦紗知-菅原詩央里
- ※以上東北大会出場
- ★東北高校選手権
- 女子総合の部 8位
- 女子トラックの部 6位
- 400m 4位 細田友里絵
- 800m 2位 細田友里絵
- 100mH 3位 高橋さとみ
- ※以上神郷インターハイ出場
- 岩手県選手権 (一般と同じカテゴリ)
- 400m 1位 細田友里絵 (57"45)
- 800m 1位 細田友里絵 (2'14"88) ※大会新
- 800m 2位 星合 萌絵 (2'18"22)
- 100mH 1位 高橋さとみ (14"57)
- 4×100m 4位 阿部かおり-菅原詩央里-牛窪温子

- 千田成美 (51"08)
- 4×400m 6位 菅原詩央里-星合萌絵-三浦紗知-阿部かおり (4'10"78)

- 県民体 (国体選手選考会)
- 少年A
- 3000m 3位 星合 萌絵 (10'08"16)
- 100mH 1位 高橋さとみ (14"48) ※大会新、国体代表
- 少年B
- 1500m 1位 三浦 紗知 (4'51"38)
- 走幅跳 4位 北宮 明歩 (4m62)
- 少年共通
- 800m 1位 細田友里絵 (2'12"89)
- 800m 2位 星合 萌絵 (2'18"07) ※大会新、国体代表
- 4×100m 6位 阿部かおり-菅原詩央里-牛窪温子-千田成美 (51"13)

- ★全国高校総体 (神郷インターハイ)
- 400m 5着 細田友里絵 (58"29) ※予選敗退
- 800m 5着 細田友里絵 (2'15"52) ※予選敗退
- 100mH 5着 高橋さとみ (14"79) ※予選敗退
- ★東北総合体育大会 (一般と同じカテゴリ)
- 800m 6位 細田友里絵 (2'18"32)
- 100mH 8位 高橋さとみ (15"01)
- 新人大大会
- 800m 1位 星合 萌絵 (2'19"86)
- 1500m 2位 星合 萌絵 (4'46"82)
- 4×100m 6位 阿部かおり-菅原詩央里-牛窪温子-千田成美 (51"48)
- 走幅跳 6位 千田 成美 (4m78)
- ★東北新人大大会
- 800m 6位 星合 萌絵 (2'15"66)
- ★国民体育大会 (千葉国体)
- 少年A
- 400m 5着 細田友里絵 (58"56) ※予選敗退
- 100mH 8着 高橋さとみ (14"95) ※予選敗退
- 少年共通
- 800m 3位 細田友里絵 (2'08"92) ※岩手県新記録

卓球部

- 男子
- 第62回岩手県高等学校総合体育大会
- 1回戦敗退 2-3 一関工業
- 新人大大会盛岡地区予選
- 女子
- 第62回岩手県高等学校総合体育大会
- 1回戦敗退 2-3 大船渡東
- 新人大大会盛岡地区予選
- シングルス 2-5 山本 詩歩 ベスト8通過

バドミントン部

- 男子
- 高総体盛岡地区予選
- 団体 2位通過
- 個人
- ダブルス 中島 駿汰、及川 心 5位通過
- 金田一貴大、金田一勇暉 9位通過
- シングルス 伊藤 聡 3位通過
- 及川 心 5位通過
- 高橋 駿 9位通過
- 平成22年度第55回岩手県種目別バドミントン選手権大会
- シングルス 及川 心 ベスト16
- 女子
- 高総体盛岡地区予選
- 団体 1位通過
- 個人
- ダブルス 鈴木 玲奈、横道 彩子 1位通過
- 堀切 詩帆、室岡 綾乃 9位通過
- シングルス 高橋 彩 1位通過
- 横道 彩子 2位通過
- 鈴木 玲奈 3位通過
- 梶田 史恵 5位通過
- 第39回東北高等学校バドミントン選手権大会
- 1回戦
- ダブルス
- 高橋 彩 0-2 島田きらら (青森山田)
- 佐山 由衣 上代沙奈哉 (青森山田)
- 平成22年度第55回岩手県種目別バドミントン選手権大会
- ダブルス
- 佐山 由衣、高橋 彩 4位
- シングルス
- 高橋 彩 ベスト8

テニス部

- 男子
- 第31回岩手県ジュニアテニス選手権
- (兼第32回東北ジュニアテニス選手権大会岩手県予選会)
- 18歳以下男子シングルス
- 菊地 航平 10位

写真提供: 俣ナカムラ写真館

同窓会の宮城支部では、隔年で総会及び懇親会を開催していますが、今年はその年に当たりますが、開催の概要は次のとおりです。で、ご都合のつく方は是非ご参加下さい。

◆日時

平成二十二年十一月六日(土)
一七時三〇分

◆場所 「アジュール銀禅」

(アジュール仙台ビルB1)
TEL〇二一七一一一三七一一

◆会費 五、〇〇〇円

◆申込 宮城支部事務局(後掲)

※宮城支部では、今年の総会のお知らせを宮城県、山形県、福島県にお住まいの方々に、往復葉書で九月二十五日に発信していますが、事務局の名簿の不備、或いは転居等の理由で葉書の届かない方が居られるものと思われまます。誠に恐れ入りますが、お心当たりの方は、是非、宮城支部事務局まで一報戴ければ幸いです。

▼同窓会宮城支部事務局

〒989-3124
宮城県仙台市青葉区上愛子
字北原道上四一―三三
事務局 小笠原俊幸
TEL〇二一三九一一九六四四
(e-mail)
moh_miyagi@yahoo.co.jp



写真は前回平成20年の総会

宮城支部の平成二十年の総会には、三十七名の御参加を戴き、盛大に開催することができました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

その時のスナップを掲載しますので、経年変化を想像しながら懐かしい顔を探して下さい。

宮城支部からお知らせ

平成22年度 同窓会総会報告



平成22年度盛岡四高同窓会総会が、7月3日(土)18時より、大通MORIOKAコミュニケーションギャラリー・LiRiOにおいて、盛大に開催されました。

総会では、平成21年度活動報告並びに決算報告があり、そして、平成22年度活動計画(案)並びに予算(案)が審議され了承されました。

総会後の懇親会には、多数の同窓生が集い、お忙しいところ関東支部から伊藤彰さん(3回生)、宮城支部からは笹森豊さん(6回生)にも駆け付けて頂きました。途中、豪華な志高プレミアムグッズがプレゼントされる抽選会も行われるなど、終始和やかな雰囲気でした。

今総会にあたりましては、多くの方々に御協力をいただき、本当にありがとうございました。

坦々の果て

宮城支部 鈴木一穂 (3回生)

人 過去・現在・未来 近況報告

イワテツ子の私は、山ばかりの、見える範囲に日本もアメリカもイギリスも在ると信じて子供時代を送りました。

宮城に移り住んで早三十年、この地には「国境」を感じさせる跡が身近に在ります。八世紀に造営された多賀城跡、十二世紀の鎌倉幕府とこの地の政権との戦いの跡。同じ日本人同士ですが、その跡には勝者と敗者の紛れもない峻別を感じさせるリアリティーがあります。この地に立つと、お前は東京

に属するのかわかるとも東北に属するのかわかれないか、イワテツ子として「東北」に自身の所在を感じるところです。

最近南方の島で国境を巡る緊迫が報じられ、いずれの結末か不明ですが、どの時にも日々の糧と身近な人たちの健勝を第一に願ひ、所詮は島国日本の更に北方の僻地の土着民である自分を見失わず、坦々と日々を送りたいものとしています。



盛岡出版コミュニティー (略称MPC)
代表 柘内 正行氏 (7回生)



出版社をつくる志



作家 松田 十刻氏
(氏名 高橋文彦 7回生)

第七回生の柘内正行さんは、二〇〇七年七月に、地域密着型の出版社「盛岡出版コミュニティー」(略称MPC)を立ちあげました。これまでに看板商品ともいっべき「もりおか文庫」を三冊刊行しています。このうち二冊は、同期生の作家、松田十刻(本名・高橋文彦)さんの本になります。

お一人にMPCに対する思いなどを対談形式で語ってもらいました。なお、対談の内容は九月末時点のものです。

松田 もりおか文庫の第一弾として、『26年2か月 啄木の生涯』を発売してから、今年十月でまる一年になるけれど、これまでの手ごたえはどう?

柘内 地元書店のバックアップもあって、まずは順調といったところ。啄木に続いて、紫波町在住のエッセイストで絵本作家の澤口たまみさんの『宮澤賢治 愛のうた』を刊行したけれど、啄木、賢治と、盛岡に関係のある偉人に新しいスポットをあてたことで、マスコミも注目してくれたのが大きい。

松田 よりおか文庫の第一弾として、『26年2か月 啄木の生涯』を発売してから、今年十月でまる一年になるけれど、これまでの手ごたえはどう?

松田 そのためには、岩手というエリアにとどまらず、全国の人たちにも手にとってもらえるようなシステムが必要では?

柘内 当初は地産地消という考えから、盛岡でしか手に入らない、良質な本をつくらうと思っていました。むろん地元に着着した本づくりというスタンスは変わっていないけれど、全国の読者に読んでほしいという作家の思いを大切に、地方・小出版流通センターという取次業者に加盟するなど、販売網の充実に努めているところだ。

松田 母校の先輩にも感謝しないといけないね。

松田 いや、それだけ熱い思いがないと、いい本はできない。本をつくるのは、お金があればできるけれど、それぞれの思いがあつてこそ、かけがえのないものになる。まっ、いざ、本づくりとなれば、難題が続出して、なかなかすんなりとはいかないけれど。

柘内 これも、あなたの力を借りているけれど、盛岡市が企画した刊行物のシリーズを受注し、この秋には刊行する。

松田 例の盛岡三大麺にまつわる本だね。盛岡のわんこそば、冷麺、じゃじゃ麺に関したエピソードがてんこ盛りだから、盛岡に来る観光客も土産品のような感覚で買ってもらえるかもしれない。

柘内 もともと、お土産感覚で買ってもらえるような本をめざしていたから、たしかにその意味ではびつたりだと思ふ。

松田 これは新書版だから、文庫、単行本と並んでいよいよ三役揃い踏み。これで、本を出したいという人も選択の幅が広がり、本づくりの提案に弾みつきそうだね。

柘内 そうしなければ、厳しい出版不況のなかで、生き残ることはできない。ましてや、地方にある小出版社なので、いつ転んでもおかしくはない。

松田 ということは、この同窓会報を読んだ先輩、むろん同輩や後輩も、自分史、エッセイ、小説、ジャンルは問わないから、どんな本づくりの相談にのってほしいということかな。

柘内 はい。それと、母校の文芸部はレベルが高く、全国的にも高く評価されている。後輩に刺激を与える意味でも、恥ずかしくない本を出していきたい。これからも四高出身の作家が出てくると思う。うちから本を出した新人が文壇にデビューし、賞をとったり、ベストセラーになったりするの、ひとつの夢かな。

松田 そうだね。本づくりというのは、夢をかたちにすることでもあるからね。

柘内、松田 お互い何歳になっても志を高く持って行こう!

お知らせ



野球部OB会が **ホームページ開設**

<http://www.志高野球部ob会.com>

平成22年度役員・事務局名簿

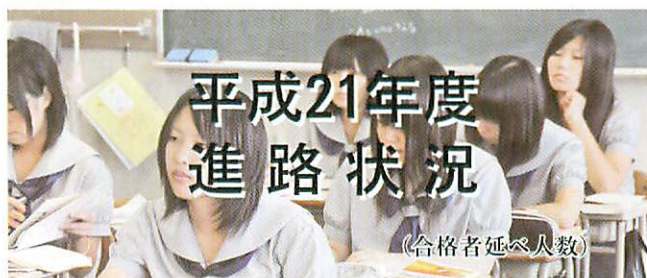
会 長	中野崎 邦 宏(6)	
副会長	岩野 光 進(3)	桜 田 宣 夫(6)
理 事	栃内 正 行(7)	
	川村 一 男(1)	小 山 光 孝(2)
	千葉 英 治(2)	千葉 悦 男(3)
	沼田 福 子(3)	藤 村 孝 史(4)
	伊藤 陽 子(4)	藤 川 伸 也(5)
	北村 和 子(5)	夏 井 文 彦(6)
	吉田 裕 昭(7)	藤 原 藤 男(9)
	佐々木 公 樹(11)	吉 野 史 彦(12)
	田中 広 江(12)	新 里 秀 明(12)
	大倉 慎 澄(13)	木 村 多 貞 勝(14)
	平野 佳 則(15)	本 村 貞 勝(16)
	村上 総 一郎(17)	石 龟 賢 一(18)
	佐藤 康 之(20)	今 川 晋 一(21)
	佐藤 征 弘(22)	町 屋 伸 一(29)
	級木 美 子(31)	田 上 俊 哉(31)
監 事	佐々木 香 住(6)	片 方 直 哉(13)
事務局長	高橋 明	
事務局員	佐藤 純	川 向 和 弘
	小 原 博	

()内は回生

教職員の人事異動

【転出教職員】

高橋 一男	副校長	盛岡農業高校
咲山まどか	教 諭 (理 科)	水沢高校
小川 幸子	教 諭 (芸術・音楽)	沼宮内高校
松戸 靖	教 諭 (芸術・書道)	水沢高校
眞岩 龍子	教 諭 (英 語)	平舘高校
小田島一晃	教 諭 (数 学)	花巻農業高校
谷藤 節雄	教 諭 (保健体育)	岩手県体育協会
鹿糠 研見	教 諭 (国 語)	一関第一高校
橋本 博幸	教 諭 (理 科)	黒沢尻北高校
高橋 国博	教 諭 (理 科)	一関第一高校
岩崎 彩	講 師 (国 語)	釜石商工高校
上方 一志	主 査	盛岡北高校



平成21年度 進路状況

(合格者延べ人数)

1 国公立大学

大学名	21年度	20年度	19年度
北 海 道	0	1	1
北海道教育	4	1	4
弘 前	12	8	9
岩 手	32	57	39
秋 田	5	2	5
山 形	3	2	3
宮 城 教 育	4	1	2
東 北	2	1	5
福 島	5	1	4
宇 部 宮	4	0	1
茨 城	1	2	2
筑 波	1	2	2
一 橋	1	0	0
お茶の水	1	0	0
電 気 通 信	1	0	0
静 岡	1	0	0
富 山	1	2	1
埼 玉	3	0	0
岩手県立	19	28	25
宮 城	2	2	2
秋田県立	2	1	2
釧路公立	1	2	2
青森公立	2	0	3
都留文科	6	0	2
高崎経済	5	1	2
そ の 他	13	15	11
計	131	129	127

明 治	2	4	1
法 政	9	10	5
青 山 学 院	1	0	0
中 央	2	0	2
国 学 院	3	1	2
東 洋	5	9	4
日 本	10	6	4
駒 澤	2	4	4
獨 協	1	1	1
そ の 他	88	112	73
計	214	250	193

3 国公立短大

短大名	21年度	20年度	19年度
盛岡短	6	12	16
宮古短	2	0	1
そ の 他	5	1	4
計	13	13	21

4 私立短大

短大名	21年度	20年度	19年度
盛岡大短	7	8	8
岩手看護短大	3	7	7
そ の 他	5	5	2
計	15	20	17

5 専門・各種学校

校 種	21年度	20年度	19年度
医 療 系	17	29	15
そ の 他	22	34	29
計	39	63	44

2 私立大学

大学名	21年度	20年度	19年度
盛 岡	34	23	36
岩手医科	4	11	12
東北学院	41	49	30
東北工業	2	7	2
東北福祉	8	12	11
東北薬科	2	1	6

6 就職関係

職 種	21年度	20年度	19年度
公 務 員	3	2	2
民 間	1	3	3
計	4	5	5